

を必要とし、支部全体で、賃上げムードを高める必要がある。そして人員補充や、後補充にも力をいれ、分会のたたかう力を高める必要もある。以上のまとめ報告がありました。

C班、3万円はできない要求（現実味がない）でもあり、会社は実感として捉えてない、分会も無理だとわかっていて会社に要求しているところがある。春闘時期は旗を上げて腕章を巻くことによって賃金だけではなく条件も取れる可能性もあるので、強気な要求と昔のようなもっと強い要求で春闘交渉をおこなってはどうか。企業となれ合いになっているのではないか。早期に納得し妥協する金額が低いのではないか。など厳しい意見が出ました。若い従業員がい

る分会は給料の底上げと人員補充を果たしていく気構えが高いのだが高齢化している分会は、ある程度給料があり金額に執着しないとところもあり温度差がある。24春闘は真に分会が納得できる金額の提示を要求し納得できない時は妥協せずに強い意志を持って今年の春闘勝利を目指します。以上のまとめ報告がありました。

続いて、各部会討論集会報告そして全体討論をおこないました。討論の中では発言をもとにして、全体で組織拡大は支部の最重要課題として再認識するとともに、拡大の大きな可能性がある分会の現状報告がありました。また近々の運動として反原発運動や反戦運動などの報告があり、中央団交が近年長引いている理由や産別運動の

重要性については、松永中央書記長から説明をいただきました。

最後に、要求額については、さまざまな意見がでましたが近年の物価高騰から生活を守るために私たちが必要とする額を求めていくとして基本給一律3万円以上。また、カンパについて結果がでてからとの意見がでましたが、要求するだけで賃上げや労働条件を確立できる企業は皆無であり、やはりそれまでの要求達成に向けた取り組みや行動（中央行動を含め）など経過が重要であるとして、春闘方針を軸にたたかい抜くこと、そしてそのための財政確立としてカンパ（被災支援カンパを含む）を実施すること。以上を全体で確認したうえで、小林委員長による団結がんばろうで締めくくりました。

2024 元旦行動

1月1日、反弾圧実行委員会が主催する「元旦行動」が、大阪府警本部前でおこなわれました。

大阪支部からは執行部6名が参加しました。主催者によると約500名参加と発表があり、参加者のなかには大阪支部OBも多数おられました。

元旦行動も、今年で6年目となり、参加者には報道関係者や女性の姿も目立ち、全体的に若年層の参加者が増えた印象でした。



5」による演奏があり、90分の集会は無事終了しました。

最後に

昨年は、ストライキについて考えさせられる1年になりました。大手百貨店や病院、放送機関、航空会社（能登地震のためスト中止）など他にもたくさんの労働組合員がストライキをおこないました。世間的にストライキをすることが犯罪として扱われる風潮となっており、実際に逮捕訴追される仲間



がいることも事実です。この件については国連人権理事会からも懸念を示されるくらい深刻な問題です。産業別労働組合として労働運動強化拡大について、今年も皆さんと共に頑張っていきたいと思えます。

（執行部 佐久原 智彦）

支部新春旗開き

支部新春旗開きが、1月10日17時30分より、第1センターで、来賓合わせて約120名でおこなわれました。



その後、来賓の方がたのあいさつが行われたのちに、18時より第2部に入り、司会を関谷書記次長に代わり、乾杯の音頭を大港労協の小嶋議長がされ、少し歓談をし、毎年好評のビンゴゲーム大会が行われました。参加者全員、出る数字にドキドキ、ヒヤヒヤ、大いに盛り上がりました。



ゲーム大会終了後に閉会あいさつを陣内副委員長がなされ、最後に小林委員長の団結ガンバローで2024年支部新春旗開きを終了しました。

（執行部 竹山 保彦）

分散会 A班 主な意見

- 春闘で、どうベアに絡めていかやっていきたい。
- 物価高に比べ、昨年の春闘は思ったほど上がらなかった。仕事量にも変化あるがもう少し上げてくれてもよかったと思う。
- 生活がカツカツで決して満足していないので、今春闘は自分も頑張りたい。
- 他の分会の話を経験、学習して交渉できるようになりたい。
- 社員数を考えると3万円の賃上げは厳しいが上げてくれてもいいと思う。
- 会社の形態を見ると金額より人員補充など獲得した方がいいと個人的に思う。
- 年齢層も高齢化して人員補充や後補充に力を入れたい。
- お金ないと生活できないし休日も遊べない。給与アップが理想。
- 賃金低いので約10名が離職。給与上げても会社は潰れないと思う。

分散会 B班 主な意見

- 鋼材の輸送が忙しいが待機時間が長い、運転手不足を解消していきたい。
- 集団交渉で他の分会を見ても妥協が早い気がする。会社に圧力かけて粘り強く交渉と付帯要求をしていく。
- 昇給制度がなく手当てで基準内賃金を引き上げていきたい。
- 荷物の減少で要求しづらい。世論の同調を利用して賃金アップを獲得していきたい。
- 全国に営業所があり、大阪単独で運賃交渉ができないが賃金は上げたい。
- 会社は黒字みたいで、人員補充も2名決まっているが、メーカーからの納車が未定なので、補充できていない。
- 人の入れ替わりが激しく、外国人労働者が増えている。仕事のミスが多い。

分散会 C班 主な意見

- 賃上げに対する考えは港湾、車両によって違うと思う。春闘始まる前から無理だと思っている人もいる。なれ合いな交渉で昔のような強気な交渉をしていない。
- 賃上げ方針はいいが、現実とか離れていると気持ちが離れてしまう。
- 過去に大きな合理化があり、賃金を戻すという希望が薄れてきた。高齢化が問題だが補充はむずかしい。
- 物価高で賃上げを会社も承諾してくれたが、若者が離職しない体制を進めたい。
- 昔の給与に戻っていないが会社の負債がなくなれば戻してくれると思う。
- 毎年の春闘で昨年よりは獲得しているので今年は昨年よりは獲得できると思う。
- 支部要求金額は初めから会社は無理ですということから交渉が始まる。
- 元請けから仕事をもらっている立場なので運賃、賃金も元請け次第と感じる。
- 子育て世代と定年近い世代では賃上げに対して温度差がある。
- 旗上げて（支部を挙げて）春闘を闘ってもらいたいし、闘いたい

集会スタート

反弾圧実行委員会代表の小林委員長からあいさつで、「労働組合弾圧に対し皆が団結し、運動強化する重要性」について話しました。その後、各団体より連帯アピールやシュプレヒコール、「法円坂5



まず、支部青年部の元気な「港湾労働歌」合唱があり、その後、第1部の司会である吉馴書記長の開会あいさつで2024年の旗開きが始まりました。

小林委員長の年頭のあいさつでまず、1月1日に発生した能登半島地震にふれ、「亡くなられた方がたに心からお悔やみ申し上げるとともに被災された全ての方がたにお見舞い申し上げます。」と話されました。